

(第3種郵便物認可)

# 四季折々、色づく森へ

## 日田市 湯ノ見 ヤマザクラなど210本

ボランティア団体、湯ノ見岳愛育会のメンバーは二十四日、日田市湯ノ見の市有林にヤマザクラ、モミジ、サルスベリの苗木計二百十本を植えた。一九九一年の風倒木被害後、多くのボランティアが駆け付け植林したものの、忘れ去られた森の再生に乗り出し、四季折々に色づく森へ、活動は新たな一歩を踏み出すとしている。



作業道で分断された森をつなごうと、植樹をする大肥地区の住民ら



10年後の花見を楽しみに、ヤマザクラを植える湯ノ見岳愛育会のメンバー

春の足音とともに、日田玖珠各地では都市の人々も加わり、植樹運動が活発化する。十年、二十年後の花見を楽しみに、豊かな森の再生を願って。小さな苗木にはそれぞれの思いが込められている。

# 広がる植樹運動

手した。

この日は雪がちらつく中、十八人が二十枚に植樹。ヤマザクラは日田市

川原町の宮崎喜三郎さん、サルスベリは地元の松本正晴さん、モミジは市から寄贈された。参加者は自分の名前を書いた札を木に結び付けた。地元の渡辺晃子さん(五)は満開の桜の下で、「したい」と話していた。

## 分断された森、復活へ

### 日田市大肥 カシ、シイなど300本

作業道の新設に伴い、分断された二つの森を一つにのみがえらせようとして、日田市大肥の「丸山子どもの森」では二十四日、地元住民と市内の特定非営利活動法人(NPO)法人のメンバー約三十人がカシやシイなど三百本の広葉樹を植えた。一部は県の自然環境保

全地域に指定され、樹齢二百五十年を超えるカシやシイの巨木がそびえ、希少な植物や昆虫が生息している。ところが、三年前、間伐作業用の道路が整備されたことで、周辺では土がむき出しになり、土砂の流出など森への影響を懸念する声も広がった。そのため、この日は道路脇にシイやカシばかりではなく、根付きが早いセンタンやタラノキなど五十一種類の苗木を植えた。

道路整備に伴い、人が森に親しみやすくなった面もある。市内のNPO法人「初島森林植物園ネットワーク」と地元「ボラティア」が協力し、散策路を整備したり、植物の名前を書いた札を立てたり、昨年から「子どもの森」づくりは大きく動き始めた。

関係者は植樹後も刈りや除伐作業を続ける構えで、参加した神川建彦さん(六)は「食べられるケンボナシや薬用樹のミズメなど、子どもの教材になる植物も植えた。自然の森になるには百年かかるが、今後が楽しみだ」と話していた。